

第 I 章 研究の概要

1 研究主題及び副主題

求められる資質・能力を育む学習指導の在り方

～指導と評価の一体化を目指す学習評価～

(1) 主題設定の理由

人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつある。社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、そうした変化が、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての児童生徒の生き方に影響するものとなりつつある。社会の変化にいかに対応していくかという観点に立つと、今後の社会を生き抜くことが難しい時代になると考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学校においても長期にわたり甚大な影響を及ぼしている。社会全体のデジタル化が推進される中、ICT 環境を最大限に活用して学びの保障を進めること、また学校教育の本質的な意義を踏まえ、この事態に対応するためのカリキュラム・マネジメントを展開することが全国の学校に求められた。

このような状況を踏まえ、学習指導要領の着実な実施、指導と評価の一体化を通して目指す児童生徒の資質・能力について、次のように捉えた。

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること

学習指導要領では、①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）、②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）、③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）、④「児童生徒一人一人の発達をどのように支援するか」（児童生徒の発達を踏まえた指導）、⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）、⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）の6点を基に、学校教育の改善・充実に生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められた。

これらを踏まえ、上川教育研修センターの第19次研究では、「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」と主題を設定し、指導と評価の一体化を図る評価方法の工夫と改善を通して、児童生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びを実現することを目指してきた。1年次では、「個別最適な学び、協働的な学び」の視点を取り入れ、研究・実践を行った。その成果と課題を明確にし、「指導と評価の一体化」を図る学習評価について、評価する児童生徒の姿をより具体的にし、指導や評価計画を工夫しながら教師の授業改善と児童生徒の学習改善を実現することを目指し、次のように研究を進めることとした。

(2) 研究主題のおさえ

① 研究主題～「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

「求められる資質・能力」とは、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗

り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要なスキルである。

これらを育成する上で必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

「学習指導の在り方」においては、「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」の視点からの授業改善がその中核的な役割を担い、指導と評価の一体化を図ることが重要となる。

また、令和元年度からの GIGA スクール構想により、新たな学校の「スタンダード」として、小学校段階から学校における高速大容量のネットワーク環境の整備が進められた。これを受けて、ICT をツールとして効果的に活用し、教育の質の向上につなげ、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことが求められる。

② 副主題～指導と評価の一体化を目指す学習評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの中核的な役割を担っている。学習評価を行い、その結果を受けて後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという指導と評価の一体化を図る中で、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて指導過程で評価する形成的な評価を行うことが重要である。形成的な評価を生かしながら、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして児童生徒が「おおむね満足できる」状況となるようきめ細かく指導・支援することが求められる。

さらに、「指導と評価の一体化」の観点から、児童生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるように指導・支援していくことが重要である。

2 求める児童生徒像

「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力等」を高め、「学びに向かう力・人間性等」を涵養し、各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせながら深い学びに向かっていく児童生徒

3 研究の仮説

身に付けさせるべき児童生徒の資質・能力が明確化された目標を基にした学習指導と、形成的な評価に重点を置いた適切な評価の「指導と評価の一体化」を図ることで、児童生徒の学習や教師による指導の改善等につなげ、組織的かつ計画的に教育活動の質が向上し、児童生徒の求められる資質・能力が育成されるであろう。

4 研究内容

指導と評価の一体化

(1) 目標と評価の一体化

指導と評価の一体化に向け、教科等の指導を通して育成する資質・能力を明確にした目標と評価内容等を合致させること。

- ・ 単元目標の明確化
- ・ 目標と評価の位置付け

(2) 指導計画・評価計画

指導と評価の一体化に向け、パフォーマンス課題等の単元構成の工夫を行った指導計画と、形成的な評価に重点を置き、児童生徒の学習や教師による指導の改善等につながる評価計画を作成すること。

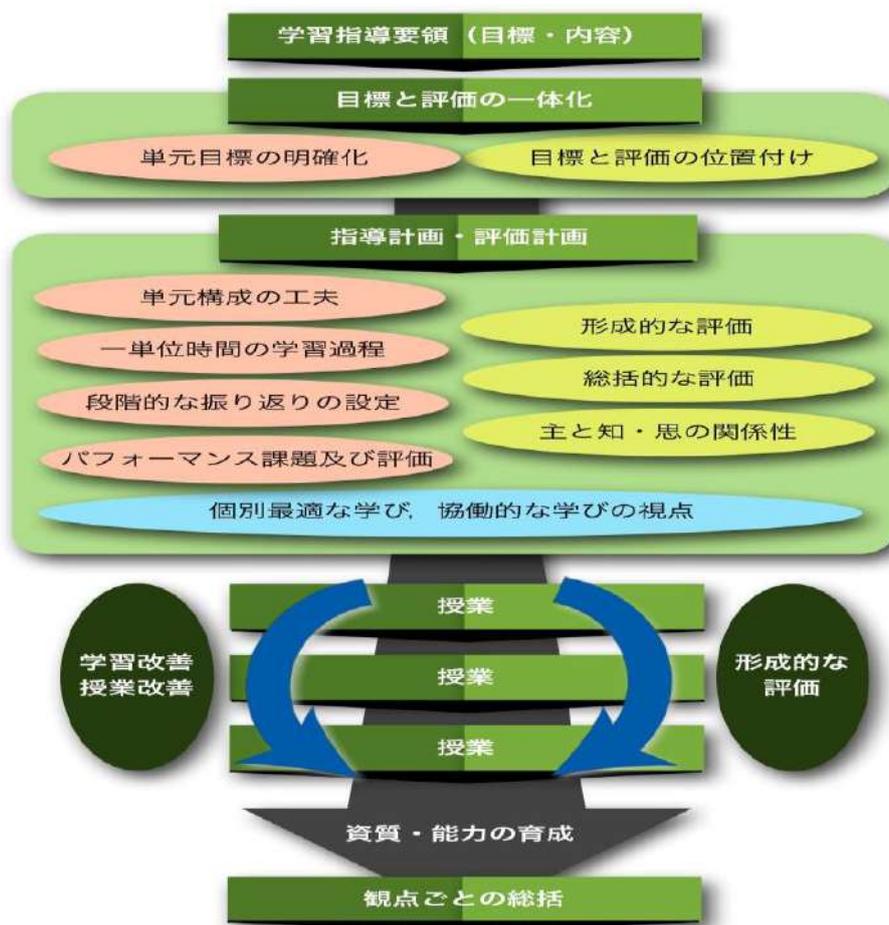
- ・ 単元構成の工夫
- ・ 一単位時間の学習過程
- ・ 段階的な振り返りの設定
- ・ パフォーマンス課題及び評価
- ・ 形成的な評価（指導に生かす評価）
- ・ 総括的な評価（記録に残す評価）
- ・ 主体的に学習に取り組む態度と知識・技能、思考・判断・表現の関係性

(3) 個別最適な学び、協働的な学び

多様な児童生徒を育成する個別最適な学びと、児童生徒の多様な個性を生かす協働的な学びの一体的な充実を図ること。

- ・ 個別最適な学びと個に応じた指導
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・ 指導と評価の一体化の考え方に立った学習評価の改善
- ・ 主体的に学習に取り組む態度についての評価との関連

指導と評価の一体化のモデル



第 I 章

5 研究の進め方

- ◇ 教科を主体として研究を進める。
- ◇ 文献や実践資料に基づく理論研究を週 1 回の定例研究室会議及び夏季、冬季の集中研究室会議において進める。
- ◇ 各年次とも、上川教育研修センターの研究員及び、研究協力校の授業実践を基にして理論を検証し、研究紀要にまとめる。
- ◇ 研究の結果については、授業研究、研究協議等の授業実践で明らかにされた成果と課題を基に、研究紀要にまとめる。

6 研究計画の概要

令和 4 年度から令和 5 年度にわたる 2 か年において、指導計画及び評価計画の具体、個別最適な学びと協働的な学びの実践を研究内容の柱として研究を推進する。

2 年次 令和 5 年度 授業実践（所員 2 名，研究協力校 2 校）

○ 研究員の授業実践

旭川市立新富小学校 社会科（第 4 学年「住みよいくらしをつくる」）

研究員 因幡 明浩

旭川市立愛宕中学校 外国語科（第 1 学年「Unit 8 『A Surprise Party』」

「Unit 9 『Think Globally, Act Locally』」 「Stage Activity 2 『My Hero』」）

研究員 片山 泉

○ 協力校の授業実践

旭川市立北星中学校 数学科（第 2 学年「一次関数」）

教諭 末次 浩二郎・溝渕 悠太

美瑛町立美瑛東小学校 算数科（第 4 学年「面積」）

教諭 相澤 正一 ・森 将太郎

7 研究の全体構造

研究主題

求められる資質・能力を育む学習指導の在り方

～指導と評価の一体化を目指す学習評価～

求める児童生徒像

「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力等」を高め、「学びに向かう力・人間性等」を涵養し、各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせながら深い学びに向かっていく児童生徒

研究の仮説

身に付けさせるべき児童生徒の資質・能力が明確化された目標を基にした学習指導と、形成的な評価に重点を置いた適切な評価の「指導と評価の一体化」を図ることで、児童生徒の学習や教師による指導の改善等につなげ、組織的かつ計画的に教育活動の質が向上し、児童生徒の求められる資質・能力が育成されるであろう。

研究内容

指導と評価の一体化

○第19次研究2年次の重点

(1) 目標と評価の一体化

○単元目標の明確化

○目標と評価の位置付け

(2) 指導計画・評価計画

○単元構成の工夫

○一単位時間の学習過程

・段階的な振り返りの設定

・パフォーマンス課題及び評価

○形成的な評価（指導に生かす評価）

・総括的な評価（記録に残す評価）

・主体的に学習に取り組む態度と

知識・技能、思考・判断・表現の関係性

(3) 個別最適な学び、協働的な学び

・個別最適な学びと個に応じた指導

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

・指導と評価の一体化の考え方に立った学習評価の改善

・主体的に学習に取り組む態度についての評価との関連

ICTの効果的な活用

- ・多様で大量の情報の収集、整理・分析、まとめ、表現
- ・児童生徒の思考の過程や結果の可視化
- ・情報の双方向性による瞬時の情報共有 等